

落雷の危険と避難場所について

大気的不安定な状態が続いています。落雷について、ネットからの情報をまとめてみましたので、児童への指導に生かしてください。

(1) 雷の性質

雷の性質をこれだけは覚えておく。

- 大気が不安定な時に、局地的上昇気流によって、雷雲（積乱雲）が発生する。
- 積乱雲がもくもくと成長するのが見えたら、数分後に落雷の危険がある。
- 「ゴロゴロ」と雷鳴が、かすかにでも聞こえ始めたら、そこに落雷する危険がある。
- 雷は雨が降る前に発生し、落雷する。
- 落雷の危険は、雷雲が消滅するまで続く。

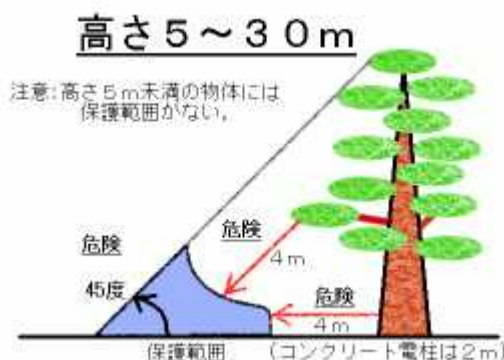
(2) 落雷に対して安全な場所と危険な場所（4段階区分）

(a) 十分安全な場所 ここに避難する。

- 鉄筋コンクリート建築物・戸建て住宅などの本格的木造建築物
- 屋根が金属で出来ている自動車・バス・列車・飛行機の中
窓は閉め、車体・ハンドル・電装機器には手を触れない。（手は膝の上。）

(b) 比較的安全な場所（100%安全ではない。5%以内の危険性あり。）

- 高さ5～30mの物体（樹木、建物、ポール、電線、電柱）の保護範囲
物体から、4m(*3)以上離れる。（コンクリート電柱は、2m以上で十分。）
張り出している葉や小枝からも必ず4m(*3)以上離れる。
物体のてっぺんを見上げる角度（仰角）が45度以上の位置。
姿勢を低くする。（両足を揃えてしゃがみ、指で両耳穴をふさぐ。）
- (*3) 昔は2m離れるように言われていた。確かに2m離れば即死することは無い。しかし、4m離れないと、重傷を負う可能性がある。



Created with

(c) 安全性が低い場所 危険性は高いが、(d)より危険性は低い。

- ・ 林や森の中では、木がまばらなところ
- ・ 避雷針設備のない山小屋・トタン屋根の仮小屋・あずまや
柱や壁から出来るだけ離れる。（柱や壁にもたれていて死亡した例が多い。）
姿勢を低くする。（両足を揃えてしゃがみ、指で両耳穴をふさぐ。）

(d) 危険な場所 即座に離れ、(a~c)に腰をかがめて出来るだけ低い姿勢で移動する。）

・ 開けたところ

グラウンド、テニスコート、ゴルフ場、屋外プール、屋根のない観客席

山頂、尾根、堤防の上、河川敷、田畑、

海岸・海上・湖上（水泳・サーフィン・ボート・水上オートバイ、避雷針のないヨット・漁船）

・ 高さ5m未満の物体（樹木・岩など）の周囲

保護範囲が無く、かえって危険。（側撃雷による死亡事故が多い。）

・ 高さ5～30mの物体（樹木、建物、ポール、電線、電柱）の保護範囲外

物体から4m未満の位置（側撃雷による死亡事故が多い。）

物体のてっぺんを見上げる角度が45度未満

・ 林や森の中（林や森の入り口付近も同様）

木の高さがわからず、保護範囲を目測するのが不可能。

葉や小枝を含むすべての樹木から4m以上離れるのが不可能。

（2m以上離れば、死亡に至る確率は低い。）

・ テントの中、ビーチパラソルの下

平地で、姿勢を低くしている時より危険。

ポールに落雷し、側撃雷が襲う。

樹木の上に張ったビニールシートの下で雨宿りは、厳禁。

・ 自転車・オートバイ

特に、雷雨の中、堤防上の道や農道を走行するのは、自殺行為。 →新芝川土手危険！

市街地では、電線の下を通れば危険性は減るが、その下だけの走行は出来ない。

激しい雨も降るので、早めに降りて避難する。